日刊 動労千葉

87. 1. 24

No. 2460

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

本格的危機と激動の時代をたくましく生きぬき勝利することのできる本物の労働運動に挑戦しよう！

われわれは奮起し勝利を戦取する

青年部旗びらき

すべての組合員のみなさん！
青年部は、一月七日、本部より布施書記長を来賓に招き団結旗開きを盛大に開催し、分割・民営化絶対阻止、十万人首切り阻止、中曽根内閣打倒へ全力で闘いぬく決意を打ち固めた。

動労千葉の先頭にたって
―布施書記長あいさつ―

まず、司会の繁沢副青年部長の力強いシュプレヒコールで旗開きは始まった。
集まったそれぞれの青年部員は昨年の激烈な闘いに確信をもち、一まわり成長したように見える。常にたたかいの先頭にたち、切り拓いてきた自信からであろう。
来賓の布施書記長は、「昨年のたたかいによって、われわれは圧倒的に優位な地平にいる。当局は、四月一日以降も動労千葉を解体することはできず突入してしまう危機感がありありとしている。
まして、革マルは何ら成算もなく、われわれはついに動労総連合という大改革の一歩を大きく踏みだした。今後も、団結を打ち固め、たたかいぬくならば勝利は確実だ。青年部は、その先頭にたってほしい」と訴えた。

今年も全力でたたかう
―新藤青年部長が檄を発す―

つづいて、新藤青年部長より「中曽根の分割・民営化の最大の狙いであった国鉄労働運動の解体に完全に失敗した。そして、何よりも、既成労働運動をのりこえる動労総連合、国労共闘が生み出されたのだ。勝負はこれから、今年も一年間全力でたたかおう」と年頭の檄を発した。
そして、各支部青年部長の決意を受け鈴木常任のカンパイの音頭で第二部にうつった。本年は、本当に正念場、われわれのたたかいが三〇〇万人失業の到来という危機に直面している日帝と真向から対決できうるのであり、全労働者の未来を一手にひきうけたのである。
断固たたかおう！

勝利の確信を提起する新藤青年部長

1・17動労千葉弁護団総会開催

動労千葉は、一月十七日、動労千葉弁護団総会を開催し、動労千葉の法廷闘争について当面する取り組みを討議しました。
総会は、山下法対部長より開会あいさつが行われ、中野委員長が「国鉄をめぐる情勢と国鉄労働者の任務について」の基調提起を行いました。
ひきつづいて、「法廷闘争の経過と今後の取り組み」について各担当弁護士より報告された後、質疑を行い終了しました。
動労千葉の法廷闘争については、
(1)第一波闘争に関わる係争事件
「85・11」仮処分・本訴・日鉄法本訴、警告書公判、名称等使用禁止差押請求訴訟、田中公判
(2)第二波闘争に関わる係争事件
確認書公判、「86・2」仮処分・本訴
(3)野村公判　(4)小倉・深見公判　(5)従前からの継続係争事件―中野公判、布施公判、組合費公判、「81・3」公判、「サンケイ」公判　以上の法廷闘争が闘われている。
国鉄当局は、分割・民営化へむけて国鉄労働運動解体攻撃をさらに激化させ、役員・活動家を職場から収容所ともいうべき「人材活用センター」に強制的に押しこめ、組合員から隔離する一方、生産点における攻撃を強め、成田支区廃止に伴う一方的配転強行、「六一・一一ダイ改」時には活動家の選別配転の強行、さらに、この間の順法闘争に対する大量不当処分通告、年末手当差別支給など、なりふりかまわぬ攻撃にでてきており、裁判闘争への取り組みは、ますます重要となっています。